



ロシアのウクライナ侵略・核兵器使用を 許さない声を広めよう

九条の会アピール内容を確認し行動をしていきましょう！

ロシアのウクライナ侵略が開始されたその時から、被害の状況が報道されてきました。ロシア軍が撤退した地域では目を覆わずにいられない報道もされています。戦争の被害は、目に見えるものだけではなく人々の心にも大きな傷を残すものとなります。それは当事国ではない全世界の人々にも及ぼすものです。

ロシアのウクライナ侵略に対する反対の声は広まっています。
侵略反対、戦争反対は世界の多くの人の声です。日本の多くの人の声です。

日本は、対応をどうするのか、「軍事力を強めて対抗すべきだ」「日頃から軍事費増大、軍事力強化」という声もあります。しかし軍事的対応を突き進めると核戦争への道になります。外交的対処しか道はありません。

私たちは戦争の経験を思い起こすときです。憲法前文・9条思い出してください。

大国だけに委ねない国連改革（国連総会の力を反映させる）や近隣諸国との関係を日常的に強めて話し合い解決の土台を創ることが大切だと思います。

侵略されているウクライナへの支援はどうすべきか、あらゆる支援として軍事的支援もするのか、私たち日本国憲法を大切に考える立場からは、非軍事的支援しかできないと考えます。（声をあげ広めること、募金をするなど模索）

ウクライナの人々は停戦と戦争反対は一致しますが、避難するか、そこで戦うか、意見も分かれると思います。もし私たちがウクライナ人だったらどうすべきかという問いを立てる人もいますが、私たちは架空の議論はすべきではないと思います。

私たちはロシアのウクライナ侵略・核兵器使用を許さない声を広めましょう。
日本政府の核兵器禁止条約の第1回締約国会議へのオブザーバー参加を求めます。

九条の会アピール内容を確認し行動をしていきましょう。
ウクライナ侵略とそれを口実にした九条破壊、改憲は許さない
（2022. 3. 25 九条の会本部事務局）別紙ご覧ください

私たちも憲法改悪を許さない全国署名を呼びかけています。
この地域ではコロナ感染が収まらないので街頭署名活動はできていませんが、集められた署名は4月14日現在148筆です。引き続き取り組みましょう。
集まったものは4月26日九条の会本部事務局に送りますのでよろしくお願いします。

4月から成年が18歳とされ、高校生向けのビラを作成しました。
成年としてどう生きるか、私たちも考えたい。別紙を高校生へ広めてください

国道沿いでのスタンディングに参加して、誰もが平和への強い願いがあるのだと改めて感じました。大きく手を振ると、それに答えて車の中から手を振り返してくれる多くのドライバーや同乗者の方たち。厳ついトラックの運転手は、力強く親指を立てて「平和のサイン」を送ってくれました。子どもを含む民間人の大量虐殺は断じて許されない犯罪行為です。

今、私たちができることは「プーチンの侵略、許さない」と引き続き発信していくことではないでしょうか？

菊池 千代美



2022年2月24日、ロシアが核兵器使用をちらつかせながらウクライナへ侵攻しました。何か行動しなければと思っていた時、9条の会から声をかけていただいた。いすみ市初？の女性だけのスタンディング。立つことなら私にも出来る。各々がロシアの侵略に抗議するステッカーやプラカードを手作りし、大原駅前とベイシア前に立ちました。

募金を申し出てくれた母子の方、車から手を振って意思表示をしてくれた多くの人たち。勇気づけられました。

しかし、この機に乗じて国内では米国との核共有や憲法9条の改定や敵基地攻撃論がはじめています。

憲法9条を守り再び「戦争する国」にしないためにロシアが撤退するまで立ち続けたいと思います。

和久



目を疑いたくなる様な光景がテレビに映し出された。人間による愚かな業がこれまで幾度も繰り返されてきたが、いつも犠牲になるのは平和な日常を希む国民。この目の前に起きている出来事を今すぐ止めさせたい。自分に出来ることは何か、と突き動かされる想いでスタンディングに参加。行き交う車の中から沢山の拍手、頷き、手振り、「イイネ」のサインなどに示された共感の意に励まされ、行動に参加した事に確信した。

阪倉 芳枝

学習会の予定

場 所 大原文化センター
・憲法条文など資料はお持ちください
・九条の会ブックレット等使用します
・課題など提案歓迎
・資料代 100円
開催日 以下の土曜日
5月28日
6月25日
7月23日

時 間 AM10:00~12:00



亡き夫の蔵書に思ふ残されし わが身の進む道しるべを

つま

夫が亡くなって三年になろうとしている今、遺品の整理を考え始めた。

簡単に処分出来るものは衣類、そして道楽ともいふべきか。撮り溜めた写真、パネルにしたもの、自己満足の作品など。しかし何とも処分し難いものは、ライフワークにしていた浄土の教えの数々の書籍と、それを読んで自分なりに感じたのであるう、数多の直筆ノート。

何冊かは棺に入れば良かったと今更悔やまれるが後の祭り。蔵書の中には仏教書ばかりではなく現代社会の問題点を考えさせられる本が何冊も。折に触れ語り合ったことなど思い出されることが。これらの本から出たものだったのかと。夫がいたら今の世情を何と云うだろうか。コロナ蔓延、安倍晋三政権放棄。安倍政権下での改憲反対を願っていたが、残念ながら流れは変わらず危機感募るばかり。無力な自分を責めながらずっと私に語り続けていることだろう。今私に出来ること、今だからこそじっくり考えてみよう。

森

